



近森会グループ

びるっぱ 9

Vol.278

発行 ● 2009年8月25日

www.chikamori.com 〒780-8522 高知市大川筋一丁目1-16 tel.088-822-5231 fax.088-872-3059 発行者●近森正幸/事務局●川添昇

高知 DMAT 正式始動

Disaster Medical Assistance Team
災害 医療の 援助 チーム

高知県知事と高知県内 DMAT 登録 6 病院との間で高知 DMAT 協定調印式 ● 7月31日(金) ● 高知県庁で

近森病院 ER(救急センター) 科長 井原 則之



高知 DMAT 協定調印式

Q. 何の調印でしょうか？

A. 高知県知事の要請を受けて DMAT が災害現場などに出動することや、出動に関する県の費用支弁や補償などを定めたものです。

Q. DMAT 登録病院とは？

A. 近森病院のほか、高知大学医学部附属病院、高知医療センター、高知赤十字病院、幡多けんみん病院、県立安芸病院の6病院です。

Q. どんなときに出動する？

A. 高知県内外で、地震、台風等の自然災害や、航空機、列車事故等の大規模な事故が起きた場合です。具体的には、高知県あるいは四国で重症患者が10名以上発生、または発生することが予測される場合です。また大地震などでは日本国内どこでも出動する可能性があります。

Q. 何人で、どうやって出動？

A. 医師・看護師・調整員で計5名を標準としています。基本的にドクターカーで出動しますが、出動する災害によって自衛隊機だったりすることもあります。

Q. 8月11日の静岡地震では？

A. 午前5時7分に静岡県で震度6弱の地震が発生し、同31分に厚生労働省と県から全国各 DMAT 隊員の個々の携帯メールに「待機」要請がかかりました。各隊員は連絡をとりつつ個人装備を調べて出動に備えましたが、幸いにも実際の出動には至りませんでした。出動要請があれば午前7～8時に病院を出発していました。ただ、東海地震・南海地震の連動の可能性もあり、悩ましいところ です。 ※ 2面へ続きます。

ビリヤード



近森 正幸

2年前の夏休みに妻と二人でロワール川を遡って、ワインリー巡りをしたことがあった。ロワール川はフランス第一の河川で、流域は温暖な気候と豊かな自然に恵まれていて、「フランスの庭園」ともいわれ、個性的な葡萄畑が続いている。

流域に点在しているシャトーは宿泊できる場所もあって、むかしの領主の雰囲気を楽しむことができる。屋内はむかしのままで、広々とした居間に隣接してビリヤード室がある。周りの壁は天井まで本棚になっていて古色蒼

然とした本が並んでいる。

ビリヤードは紀元前400年頃ギリシャで戸外のスポーツとして始まったようで、14世紀ごろ、ヨーロッパの宮廷で流行った。ルイ14世などは医者の薦めで健康のためビリヤードをしたとの記録も残っている。

シャトーホテルの一角で見かけたビリヤードの記憶があって、ちょうど高知文化教室にビリヤード教室が始まったのを機に、1年ほど前から妻が通い始めた。ビリヤードはやり始めるとなかなか奥が深く面白いうで、わたしも妻に誘われてこの3カ月ほど前から始め、結構いい勝負をしている。

屋内ゲームとしてのビリヤードは暑くも寒くもなく、1～2時間ストレスを発散させるにはちょうどいい。

以前『サウナと日曜日とマッカラン』を発行した当時のストレス解消は、サウナと日曜日とマッカランだった。今はウィスキーはあまり飲めなくなってもっぱら二人でワインに親しみ、ビリヤードを楽しんでいる。

(理事長・ちかもり まさゆき)

※ 1面より続きます。

Q. 東海・東南海・南海連動型地震とは？

A. 東海地震・東南海地震・南海地震が同時あるいは短期間に続発する超巨大地震です。100～150年間隔で定期的に発生していることで知られ、1000年以上前から記録が残っています。一番最近の連動型地震は1854年幕末、坂本龍馬の時代で、江戸幕府が倒れる原因の一つとなったようです。今年はそれから155年目に当たります。

Q. 南海地震が起きたらDMATが高知に来る？

A. 全国からDMAT・支援が集まってくると思います。しかし、地理的に高知は県外からのアクセスルートがかなり制限される可能性があり、1～2日以上かかるかもしれません。それだけに普段からの災害に対する意識が大切だと思います。



調印の様子

**近森病院エマルゴ
災害机上訓練**
2009年8月1日(土)実施

災害支援病院である近森病院では、地震や大規模事故が発生した際の受け入れを前提とした防災訓練を例年行ってきています。

個々の活動だけでなく、病院活動全体で把握するためには、机上訓練が有効であるということで、昨年来「集団災害対応机上シミュレーションキットを用いたエマルゴトレーニング」を行なっています。



訓練には院外からも大勢の参加があった



お・知・ら・せ

第59回 地域医療講演会

「急性大動脈症候群患者を救うためには？－病診連携とチーム医療－」

9月11日(金) 18:30～

ホテルサンルート高知で。

講師 天理よろづ相談所病院 心臓血管外科部長／京都大学臨床教授
山中 一朗 先生

第58回 日本形成外科学会 中国四国支部学術集会

9月13日(日) 8:00 開場

県民文化ホールグリーンホールで。
会長を近森病院形成外科 赤松順部長が務めます。

高知シティ FM 放送ラジオスタート
毎月 第一月曜日 18:00～18:10

「現代医学と地域医療」

近森病院の取り組み

各診療科が交代で担当するインタビュー形式の番組が始まりました。

周波数：76.2FM

(愛称 ホエールステーション)

● 9月の歳時記 ●

きんもくせい
金木犀

文●ER(救急センター)・一般外来

辻本 美和



中国南部の桂林地方が

原産で、日本には江戸時代に渡来し、一般には桂花の名で呼ばれ、金木犀の他に銀木犀、柎木犀などの種類がある。

秋になると家の庭先で、小さなオレンジ色の花を無数に咲かせ、甘く強い香りを放ち、かなり遠くからでも匂ってくる。また、金木犀の香りを嗅ぐとどこか懐かしく、昔のトイレの消臭芳香剤を思い出すのは私だけでしょうか？(笑)

モクセイ科モクセイ属。



画●放射線科外来

川田 ゆかり

聴診器と私

心の聴診器で患者さんの「心」を聞く

私がMy聴診器を持ったのは近森病院に入職してからです。安物の聴診器でしたがピンク色の聴診器でした。たいした技術もなかったですが、それを使うことが心地よく、うれしかったことを憶えています。病棟の先輩からいろいろ教えてもらいました。

最初は聴診しても正常と異常の違いが微妙にわからず、アセスメントもできませんでした。経験を重ねるうちにもっと良いものがほしくなり少し値段の高いものを購入しました。

それは現在も使っている2代目の聴診器です。それも年数を重ねるうちに古びてきましたが、なんともなくしっくりと馴染んでいます。

管理職になり、その聴診器の出番は少



リハ病院2階病棟看護師長
梅木 まき

し減っていますが、今までの経験や学びをスタッフに伝えていきたいと思えます。

また、いま思っていることは心の聴診器をもって患者さんの心を読み、心に寄り添った看護ができるように努力していきたいということです。それがいまの私の役割ではないかなと思っています。

急性期 リハビリテーションシリーズ

その2 脳卒中リハビリテーション

急性期から可能な限り安静を取らず、単純に起きて生活するだけではない
適切な安全管理のもと、各自にあった生活動作の確立が求められる近森病院
理学療法科 主任
高 芝 潤

脳卒中は3大疾病のひとつであり日本では要介護状態をもたらす原因疾患の第1位を占めています。その治療方法は年々進化を遂げ、tPAなど急性期における積極的治療が一般に認知され始めています。リハビリテーションも同様に進化し、ひと昔前までは安静を強いた急性期治療は、疾病による障害以上に活動制限による生活障害への影響が示唆されるようになり、今では脳卒中の急性期リハビリテーションは急性期から可能な限り安静を取らないことが重要となってきました。

しかし、単純に起きて生活するだけではなく、適切な安全管理のもと患者さん一人一人にあった生活動作の確立が必要となります。

例えば麻痺があっても形はどうであれ自己流で歩ける人は多くいます。しかし、麻痺した身体を訓練することは一度途切れてしまった脳の神経回路を、千切れた糸を紡ぐように元の状態に近づけるために、自分の身体をしっかりと見つめ理解していただく必要があります。単に歩くだけでなく、歩く姿勢や動作の流れ

を自己で理解し自覚する必要があります。

今まで感じたことのない感覚に対する新しい気づきが脳卒中の急性期リハビリテーションでは重要となります。そして、自己を理解することは障害をもってストレスを感じてしまった心にも、大きな助けとなることでしょう。



呼吸器の付いた脳卒中の患者さんを訓練しているところ

私たちの夏限定の趣味



『よさこいアルバム』から気に入りの一枚

新館 4階東病棟
看護師

土居 幸乃(左)
安岡 志穂(右)



私たちの趣味??と聞いていいのかわかりませんが、ここ2年連続でよさこい祭りに一緒にチームで参加し、一緒に夏まつりを満喫しています。よさこいの短所は仕事の後の練習、痩せると思っている人も多いと思いますが動く分だけ食事摂取量も多くなりダイエットにもならないこと、日焼けする、暑い、疲れる……と考えれば考えるほど嫌な所ばかりでできます(笑)。

しかし、それ以上の魅力……それは踊るアホオに、見るアホオと言いますが、本番になると踊り手と見る側の一体感があり、疲れや暑さもふっ飛ばし、とにかく「楽しい」の一言につきます。私たちの楽しみの一つ、当日の髪型と化粧。事前に美容院での打ち合わせのあと、楽しみな本番……早朝4時からヘアメイクし、正午より踊り始め。かなりハードスケジュールですが、踊るアホウになり、眠たさも忘れ狂喜乱舞しています。そして、毎年友達に「真顔で踊って怖い」と言われるので、来年こそは「弾ける笑顔」を目標に挑みたいです(笑)。

近森会グループ写真展 表彰式

第2回目の開催となり、応募総数は昨年の179点を大きく超える244点。しかも本年度は応募点数をひとり3点までとしていたため(昨年は21点応募してくれた人もいた!)、より多くの職員が関わってくれたことになると、コミュニケーション委員会ではその浸透具合を喜んでいます。

こういった催しが近森会グループの写真文化の醸成に繋がり、より豊かでしかも信頼関係も深まるような日常に、花を添えてくれているようです。栄えある受賞作品を誌上作品展でお楽しみください。

表彰状を贈った皆さんと、贈られた皆さん



審査中の、近森会写真倶楽部「瞬」講師を務める愛媛県写真家協会の古茂田不二会長



第2回 近森会グループ写真展特集号

主催：近森会グループコミュニケーション委員会 協賛：近森写真倶楽部(CPA)「瞬」 会期：2009年7月3日(金)～9月3日(木)

応募総数は昨年の179点を大きく超える244点。栄えある受賞作品をこの誌上作品展でお楽しみください。

● 古茂田賞 山本 彰「夜桜」

石垣の上に咲く夜桜を面白いアングルで撮影できており、その技術と努力はとくに優秀と認められました。(古茂田不二)



▲4月初めの高知城花回廊を三脚を持って訪れた時です。夜空に映える桜の木に向かって石垣の上を這い上がっていき色のたなびきに、思わず広角レンズを向けました。望外の賞を戴き、驚くとともに喜んでいきます。励みになります(山本 彰)

● 理事長賞(人物部門) 谷村 由衣「笑顔咲ク(^_^)」

その笑い声が聞こえてくるような底抜けの笑顔が素晴らしい作品で、いつもこの笑顔を決やさず勤務していただきたいと思う一枚でした。(近森 正幸)



▲この写真は大学の友達との日常を写したものです。このとき、なぜこんなにも笑っていたのか全く覚えていませんが、笑いの絶えない毎日でした。最高の仲間に出逢えたことを感謝したい一枚です。(谷村由衣)

● 奨励賞 宇田 和子「朝もやの棚田」

人物の位置やもやの雰囲気も良く動きがある作品でその技術と努力が認められました。



写真は夫が好きで撮影と一緒にいるうち私も好きになり、楽しくなっています。とても素敵な棚田で何度か通り、早朝小雨が降り出し棚田が見えなくなり、待機していると、薄っすらとすばらしい棚田が現れ、思わず「今だ」とシャッターを押しました。(宇田和子)

● 奨励賞 小川 明希「白い村の裏道」

街並みを見下ろし光の強弱から坂道の雰囲気がよくわかるように撮られており、その技術と努力は特に優秀と認められました。



受賞して、とても驚いています。スペイン旅行をした時、町並みをなんとなく撮ったもの一つで、雰囲気がよかったので出展しました。また来年も何か出せればいいな。(小川明希)

● 古茂田賞 宗石 勸九郎「はじめまして!」

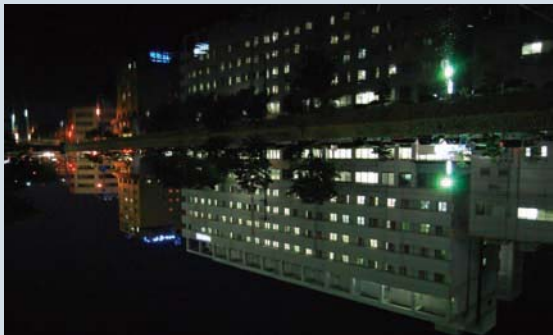
シャッターチャンスを逃さず、またお母さんの優しい表情も上手く撮影できており、その愛情あふれる写真は特に心を和ませてくれました。(古茂田不二)



▲実はこの子は双子で、1分前にもうひとり産まれています。予定日より2ヵ月早く生まれたためにすごく小さく、産後すぐに保育器に入れられ、二人一緒に写真に納まったのはずっと後になってからでした。今では元気な暴れん坊!です。(宗石 勸九郎)

● 理事長賞(景観部門) 山崎 啓嗣 24時間 × 365日 × ∞

24時間休むことなく救急患者を受入れてきた近森病院の原点が上手く表現されており、その技術と努力は特に優秀と認められました。(近森 正幸)



▲夜の近森病院を西南方向から撮影し、敢えて上を逆にしました。水面に映る姿は、本当にきれいで中の慌ただしさを感ぜさせずそのギャップと存在感の大きさを伝えたかったです。(山崎啓嗣)

● 奨励賞 岸田 豊和「ケーキ入刀」

出席者の表情をうまくとらえています。題目の『ケーキ』が入っていれば、さらによい作品となったことを期待させる一枚でした。



ICU病棟の町田君の結婚式での一枚です。画像診断部からのミニアルバムのために撮影していたところ、幸せいっぱい町田君を撮影するみんなの顔がうれしそうなので、いいなと感じました。(岸田豊和)

管理部長賞 橘愛「爆睡」

タイトル通りぐっすりと眠る子どもさんの姿を全面にとらえ、思わず「うらやましいなあ〜」と感じさせられる作品でした。(川添昇)



◀いつも元気いっぱい、好奇心旺盛で毎日が発見の連続。泣いたり笑ったり、怒ったり考えたり…一日中思いつきり遊ぶと、夕飯の後はパパが帰るのも待ちきれずに眠ってしまっ、うちの次男です。(橘愛)

統括看護部長賞 (感謝編) 山崎 明美 「ひいばあちゃん大好き♥」

働く女性を支え温かく見守ってくださるご家族の存在を感じることができ、同じ女性として大変うれしさを感じる作品でした。(梶原和歌)



◀私の甥っ子がどうしてもひいばあちゃんとの写真がほしいとのこと、今年お正月に撮影したものです。年齢差八十二歳の二人ですがよく似ていると思いませんか？私を癒してくれる二人です。

管理部長賞 久保行広「Jump！」

近森会グループの勢いをイメージさせるような印象的な作品で、その技術と努力は特に優秀と認められました。(川添昇)



◀このたびは素晴らしい賞をいただきありがとうございます。この写真は、かわいい我が娘が近くの公園で夢中で遊んでいるところを激写したものです。賞金はもちろん娘に還元いたします。♥

統括看護部長賞 (職員旅行編) 小野 美樹 「ドヴログニクの祈りの刻へ」

クロアチアの悠久の歴史や心の祈り、静かさを感じる作品でした。(梶原和歌)



◀クロアチアは内戦からの復興まもない国で、世界遺産ドヴログニクでも多大な被害と尊い命が失われました。そんな意味も込めて、文才のない私に代わりたイルトルを付けて下さった看護師の山崎マリアさんに深く感謝します。(小野美樹)

コミュニケーション委員長賞 楠岡 明峰 「和っ!!」

近森会の結束力を強く感じさせる作品であり構図も面白い一枚でした。(片岡真一)



◀今年の三月、送別会にて使用させて頂いた写真です。他にもポーズを変えて撮ってくださいまして…、この写真が成功ショットです。いい笑顔です。仲間という良さが伝わる一枚です。本院作業療法士のみなさん、ご協力ありがとうございました。

コミュニケーション委員長賞 嶋崎 ユリカ 「信号待ち」

アジアの力強さを感じる作品で、その着眼点と構図は特に優秀と認められました。(片岡真一)



◀ホーチミンの街を移動中、バスの窓から見た信号待ちの光景に圧倒され、「これぞベトナム!」と思わずカメラを向けました。人々の逞しく生きるパワーを感じていただければ嬉しいですね。有難うございました。

「みんなのでファイト!」
つながる人の輪、心の輪」

高知ハビリテリングセンター センター長の本、出版



家族に友達に支えられ生きてきて、今、自分の果たすべき役割は何か。「みんなが幸せな社会づくりをめざして」と、活動を続ける著者の心に寄り添い、自分に「ファイト!」と、声をかけてがんばってみたいくなる。(KK南の風社編集スタッフ 原明恵/A5判168頁 定価1,575円) **コンテンツ** 感覚のない身体と自由な心/こんなステキな仕事に出会えた/対談①みんなが幸せな社会づくりを目指して(ゲスト/近森正幸さん) 学び合い、育ち合う対談②子どもに未来を託して(ゲスト/橋本大二郎さん) 大きな、広がる、愛の輪

詳細は <http://minaminokaze.co.jp/148.html>

出張報告 ● 第14回 日本緩和医療学会学術大会に参加 ● 2009年6月19日(金)～2日間、大阪国際会議場で

参加者(役職を取り扱った個人の職種でチームに加わるという意味から、敬称と役職を略します):須賀太郎(痛みのクリニック医師)・山本彰(呼吸器外科医師)・田中健太郎(理学療法士)・高原優(医療ソーシャルワーカー)・矢野純子(管理栄養士)・上戸理恵(看護師、がん性疼痛認定看護師資格取得へ向けて努力中!)・多田智(事務)・川久保和子(看護師)

緩和ケアチーム活動開始

近森病院新館5階西病棟 シニア看護師長 川久保 和子

後列左から、田中健太郎、中村寿里(看護師)、川久保和子、高原優、多田智、須賀太郎。前列左から、國澤梨紗(薬剤師)、上戸理恵、矢野純子。丸枠は、会に当日出席できなかった山本彰

① 5,500人を超える参加者で盛大に

「緩和医療～原点から実践へ～」というテーマで約5,500人を超える参加者のなか盛大に行われました。

緩和医療の実践には多職種により構成されるチームでのアプローチが必要とされ、各方面からの発表があり、シンポジウム9・パネルディスカッション3・教育公演6・口演発表88・ポスター発表351題と、盛りだくさんな内容でした。

それぞれが自分の興味あるセッションへと、どこも満席に近い広い会場を右往左往しながらの有意義な2日間でした。

② 初期段階からの緩和ケアの実施

患者さんたちの声を受けて成立した「がん対策基本法」が施行され2年がたち、「治療の初期段階から緩和ケアの実施」が重点課題の一つと定められています。そこで、急性期である当院でも必要性を感じ、緩和ケアチームを立ち上げました。

③ 近森病院緩和ケアチームの活動

当院でのこれまでの介入依頼は、痛みのコントロールが主となっています。時間的余裕を持って患者さんを訪問することにより、思いを表出しやすい場を持ち信頼関係を築くように努めています。

患者さんの言葉に癒される場面もあり、自分たちの成長に繋がっているといえます。週1回のカンファレンスで各職種から出される意見は、患者さんに対する理解が深まり、色々な局面に対する対応能力が高まったり、知識習得の場ともなっています。

それらを病院全体に広めていこうと、月に1回の緩和ケア勉強会も開催しております。緩和ケアチームの存在を知っていただき、依頼件数が増えることを期待します。

④ 傾聴の大切さを改めて実感

患者さんやご家族の思い、体験を発表したものは、説得力があり涙を誘われるものもありました。話を聞いて欲しいという当たり前の要求に対し、おそらくその時間さえ確保することの出来ない忙しい現場、傾聴することの大切さを改めて

実感させられました。

患者さんのニーズを理解したうえでゴールを設定し、目標達成に向けて意思疎通を良好に保つことで、強いチームにつながるのとことでした。病棟スタッフとの連携を意識していかなければと思いました。

⑤ オレンジバルーンプロジェクト

ところで、日々の緩和ケアチームの活動はまだまだ十分とはいえませんが、チーム自体の存在をアピールするため、オレンジバルーンプロジェクト(「私たちは緩和ケアに携わっています!」)バッジを胸元につけることとしました。▼

これは自分たちに課せられた責任と自覚を忘れないため、また患者さんを含め、気軽に声をかけていただけるよう期待を込めたものです。 束を固めてまいりました。



経験を重ねながらチーム力を高めて行き、苦痛のある患者さんが少しでも解決の方向に向かえるよう努力を続けたいと思っています。

学術大会の最後は、大阪名物道頓堀のかに道楽で、かにに舌鼓を打ちながらチームの結

ハッスル研修医

野中 裕子

さまざまな出会いに支えられ…

初期研修医から後期研修医になり、以前よりも自分に課せられる仕事のやりがいと重みを感じながら日々働かせてもらっています。自分にはまだまだ足りないものがたくさんあると感じながらも、周囲からの支えもあり、少しずつ前に進んでいるという実感もできました。

ただ、研修医の日々は一つ自信を持たせたと思ったら、三つ自信をなくしてしまうといったことが日常茶飯事です。それでもまた頑張ろうと思えるのは、いつか少しでも近づきたいと思える恩師の存在があるからです。しかし、それだけで日々頑張っているわけではありません。こちらの病院へ



来て、環境の変化にもようやく慣れてきました。そしてなにより、ここにも素晴らしい出会いがありました。頼れる存在、支えになってくれる存在、心を柔らかくしてくれるそんな方々との出会いがあるからこそ、心が強く健やかにあるのだと思います。

ノーマライゼーションの勘違い

国立大学法人 高知大学教育学部 准教授
社会福祉法人 ファミージュ高知 理事

2009.08.13 第59回高知市納涼花火大会で

是永 かな子

大分県出身、大学から東京に出て、就職で高知に移住。高知歴6年。専門は、障害児教育学、特別ニーズ教育スウェーデン障害児教育制度史



例えば、明日一日休みになったとしたら、みなさんはどうしますか？家でゆっくり休む人もいれば、日帰り旅行に出かける人もいます。映画に行く人もいれば、読書をする人もいます。草野球で身体を動かす人もいれば、野球の観戦に行く人もいますでしょう。

このように例えば、人が考える「余暇」は違ってきます。ところが「私は身体を動かしたい。そのうえ運動は健康に良い。ゆえに運動をすることが余暇に適している、だから今日は全員草野球をしよう」と、「草野球で身体を動かす人」が自分の価値観を、「家でゆっくり休みたい人」に押し付けたとしたら、どうでしょう。そのとき「家でゆっくり休みたい人」は全く幸せではありません。これはノーマライゼーションの原則に反しています。

ノーマライゼーションとは、「他者の価値観を認めつつ、それぞれが幸せだと思える生活を保障すること」であり、それは多様な価値観を認める考え方だからです。

ゆえにノーマライゼーションの実現において、自分のことを自分で主張できるための「自己決定」、多様性

を認める「他者尊重」が重要になるのです。

ところが「障害者」と言われる人の現実の生活においては、『『アブノーマル』な人を『ノーマル』にすることがノーマライゼーションの具体化』と勘違いされていることがあります。

例えば「施設を出て地域で暮らす」、「特別支援学校ではなく地域の学校に通う」など、多くの人が良いと思われる方向を押しつけ、「施設で暮らしていたから施設の方が落ち着く」、「地域の学校は荒れているので特別支援学校を選びたい」などの小さな声を聞かない傾向があります。これはノーマライゼーションではありません。

自己決定も、ただ本人に「どう？」と聞けばいいということではありません。情報を絵や簡単な文書に変えるなど本人に分かるように工夫して伝えているかという合理的配慮が前提です。

多様な選択肢を用意したり、「当事者の価値観」を尊重したりする「他者尊重」を行っているかが重要です。そのうえでそれぞれが「幸せだ」と思う生活を保障しようと努めているか、が問われていると言えます。

新シリーズ♥♥♥ 管理部長の

こだわり ヘルシー美食 10

加齢とともに味覚も変わってくるのか。最近、マゾヒスティックなほど酸っぱい味が好きになってきた。

若い頃はけんどい酸っぱさの味に出会うと顔をしかめたものだったが、いつのころからか始めた就寝時と起床時の一杯の柑橘味の米酢水は、身体を元気にしてくれているような気がする。

今回はさっぱり味の…



川添 昇

イセギ(イサキ)の湯引き



画 臨床栄養部 科長 吉田 妃 佐

〈作る〉

イセギはサクで買って厚めに切る。熱湯にさっとくぐらせて氷水に取り、それからキッチンペーパーで水気を取り、器に盛る。ネギ、青じそをみじん切りにしたものと、もみじおろしを乗せて、ポン酢をかける。

〈食べる〉

ポン酢にさらにブシュカン（酢ミカンの一種）をかけると夏らしくなる。深皿に水を張って冷凍した氷皿を作りラップをして、その上に盛り付けるとダラダラ飲みの飲んべえでもいつまでも冷え冷えのイセギが食べられることとなる。

いかに美味しく食べて飲むか、「この情熱を仕事に少しでも向けると嬉しいのだが…」と、上司の声が聞こえてきそうな気がする。

なお、一緒に飲む酒はやはりキリキリ冷やした土佐の酒に限ると思う。お好みで、スパークリングや白ワインでもいけます。でも、少し余計に酸っぱくなります。

私のこの一枚

ICU 病棟 看護師 小笠原 唯い



左の写真は先日作ったチーズケーキをお誕生日用にしたものです。休日や暇なとき、ふいに作りたくなる時があり趣味のひとつとしてお菓子作りを楽しんでいます。

ひとり暮らしなのでよく職場や実家にもっていき食べてもらうのですが、喜んでもらえることと作る楽しさが増えますね。



看護部 キラリと光る看護 Part 2



近森オルソリハビリテーション病院 看護部長 尾崎 貴美

人を育て、自らも育てられる 存在だと、 身にしみて…

オルソリハビリ病院が誕生して10月で2年になります。最初はオルソって何？ そんな疑問も多かったのですが、orthopedics（整形外科）という意味も浸透してきました。

オルソでは、今年初めて看護学校の9名の基礎実習を受け入れました。実習中の学生の伸び伸びした姿、そして指導するナースの生き生きとしていること、普段見ることの出来ない一面に触れました。

臨床指導者のナースに「心がけていることは何ですか？」と尋ねると、次から次と矢継ぎ早に思いを語ってくれました。「10日間の実習で展開する看護過程は完全とはいえないが、入院から退院までの一連の流れを“チーム”で行っていることをわかってほしい！患者さんと、ドクター、ナース、セラピスト、MSW、管理栄養士、薬剤師、



とのかかわりを知ってほしい」とのことでした。

後で聞くと、オルソのチーム医療の展開の“オルソの花”を伝えたい…と。それを17項目レポート用紙2枚にぎっちりまとめていました。

そして最後に「〇〇さんのような看護師さんになりたい」、学生のその一言がうれしかった…と。

「やっぱり人を育てることが好きなんだ」私たちは人を育て、そして自らも育てられる存在ということを身にしみて感じました。

今後、益々地域に根ざした病院として、オルソの役割を果たしていきたい、オルソの合言葉「あなたのために」そんな気持ちを持って…。

新 医療安全シリーズ⑧

親・交

医療安全担当看護師長 田村 一恵



昨年2月から開催のVHJ（Voluntary Hospitals of Japan）輸液ライン標準化検討委員会に、当院からは施設用度課の森士幸課長（上の写真右）と私の2名が参加させていただいている。委員会への参加12施設は、8月に出版された週刊ダイヤモンド「全国版民間病院・ベストランキング」の上位50位以内に半数以上が入っている。

委員会は2～3か月に一度東京で開催され、親しくなった施設の管理職の方と会う度に、現状報告や相談などし合いホッとしたり、焦ったり……。当初は出張に向かう足取りは重かったが、1年経つ頃にはコミュニケーションも弾み、今では委員会で情報交換するのが待ち遠しい程である。

当院から輸液ライン標準化検討委員会以外に、いくつかの部会にも参加させていただき、いい刺激をうけている。

これからも参加施設の方々と親交を深めつつ、委員会で検討した輸液ラインを安全面・感染面・コスト面からも皆さんに納得していただける形にしていきたいと考えております。

リレーエッセイ

近森病院 臨床工学部 西村 哲

みなさんは、めだかと聞くと何を想像しますか？

数年前に全国的にめだかブームが巻き起こって、芸能人でもめだかを飼っている方がおられるほどに話題になっ



夢は近森会グループへの めだかブーム到来！

ていたのですが、あまり認知度が高くないみたいで、「趣味がめだかの飼育なんです」って言うと返ってくる言葉が「めだかって…」という感じで、やはりみなさんの頭の中のめだかは理科の教材なんです。確かに僕がめだかを趣味にする前もそんな感じでした。

僕がメダカを飼い始めて4年位になりますが、今のような夏場だと水温が上がり活発に産卵してかなり増えるのですが寒い冬になるとかなり数が減ってしまうのが悩みでした。しかし、めだかが縁で知

り合ったおじさん達にいろんな情報をいただいて昨年は無事冬を越えることができました。

今年のテーマは『めだかにとって良い環境を作る』なので、水にはとてもこだわってます。僕は臨床工学技士として透析室にいますが、透析では大量に水を使うため水をきれいにする水処理装置というものがあります。仕事と趣味で同じ水という共通点があるため、平日頃患者さんのため、また、めだかのために良い水を作っていきたいと思ってます。

これをきっかけにして近森病院にめだかブームを起こすことが僕の目標です。

研修医、2年連続「優秀演題賞」受賞

「励みになります」優秀演題賞の表彰状▶

▼指導に当たった
呼吸器内科の
中間貴弘科長と

2年連続受賞の快挙!

近森病院では、これからの日本の医療を担う研修医の教育にも力を注いでいる。その研修医の一人である濱田佳寿研修医が昨年に引き続き、今年も日本呼吸器学会・日本肺癌学会合同の中国四国地方会で「優秀演題賞」を受賞するという快挙を達成した。



学生実習で近森病院の救急医療に感銘を受け、近森病院での研修を志望したという濱田研修医。「なぜ2年連続受賞できたのか?」と問うと、「指導医の中間先生に言われる通りに準備して発表しただけなんです!」とその答えはあっさりしたものであった。はっきりと自分の意見を述べられるひとだと聞いていた濱田研修医だが、何とも控えめな答えのようでもある。しかし、呼吸器内科の中間科長は結構厳しい指導を行うことで有名なから、その指示通りにきちんと準備して発表できたということは十分評価に値する!というのが大方の見方ようだ。

昨年の受賞演題は「当院における呼吸管理チームの活動とNPPVの位置づけ」というもので、より適切な人工呼吸管理を行うべく2005年に結成した呼吸管理チームの活動と、マスクで行う人工呼吸管理であるNPPVの導入について報告した。今年の受賞演題は「当院におけるEBUS-GSの使用経験」というもので、超音波を使用した気管支内視鏡検査についての報告である。いずれもまだ新しい試みや手法である。中間科長曰く、「患者さんにとって有益な新しい試みや手法は積極的に取り入れるべきで、それを受け入れてくれる精神が近森病院にはあります。そして、それらの試みや手法は当院だけでなく、他の病院でも取り入れられて、より多くの患者さんの役に立つように普及させなければいけません。そのために学会で発表するのです」と。

▶バスケットに熱中! 中学時代この姿勢も評価され、2年連続の受賞となったのだろう。

バスケットの

オールスター選手

さて、2年連続受賞という快挙を達成した濱田研修医だが、医学部に合格するための猛勉強時代を振り返ると、「結構しんどい時期もありました」と言う。

小さい時からスポーツが大好きで、バスケットボールにのめり込んだ中学時代には、高知市代表のオールスターに選ばれたほどの選手だったとか。

だが、練習中にそんな彼女を突然のケガが襲う。全治3カ月。バスケットボールに明け暮れた毎日から、「もう自分は空っぽ? 自分に何が残っているの?」と悩む日々……。

しかし、持ち前の負けん気と、バスケットボールで磨きかけた力強さが彼女自身を前に進ませた。「部活がなくなった虚しさを受験勉強で穴埋めした」結果、医学部に進学した彼女は、いま近森病院で研修し、医師として日々研鑽を積んでいる。

医師を育てる

近森病院は、これからの日本の医療を担う研修医の教育にも力を注いだ。地域医療に貢献する病院として、地域医療に貢献する医師を育てるのは、我々の大事な役割だ。これからも研修医の教育を充実させていきたい。

研修医・優秀演題賞

医療法人近森会 近森病院 呼吸器内科

濱田 佳寿 殿

本学会において、貴殿が発表された演題は特に優秀と認められたので、ここに研修医・優秀演題賞を贈りその栄誉を讃えます。

平成21年7月18日

第48回日本呼吸学会中国・四国支部会
会長 徳島 武



よさこいの夏

2009

2チームが当院にもお越し下さり、おかげで入院中の患者さんも楽しめました!



土佐高校OBの「陽」チームの皆さん



近畿大学チームの皆さん

緑の近森会グループ

病院周辺の緑に癒されたり、元気をもらおうという人も多いのではないのでしょうか。そこで、真夏の緑を散策してみました。



新館東角のケヤキ



オルソ前のケヤキ

本館西のクスノキ



新館の中庭

お知らせ

第17回 秋の運動会

9月27日(日) 9:30～開会挨拶
高知女子大学 池キャンパス 体育館で
(集合は9:20～です。よろしく～)

近森会グループ	
外来患者数	18,129人
新入院患者数	822人
退院患者数	820人
近森病院	
平均在院日数	15.36日
地域医療支援病院紹介率	82.17%
救急車搬入件数	407件
うち入院件数	215件
手術件数	409件
うち手術室実施	270件
うち全身麻酔件数	161件

2009年7月の診療数

企画情報室

7月の退職者

敬称略

◆ 31日付、亀谷千秋・4 東看護師。磯田真知子・リハ病院作業療法士。

恒例 月いちコンサート

今日は沖繩三線演奏会を外山さんが!

8月21日に新館2階ホールで開催。会場からのリクエストを受けたり、踊りの披露もありました。



図書室便り

(2009年7月受入分)

- ・OS NOW Instrucion 整形外科手術の新標準9 人工股関節置換術 MIS から再置換まで応用できる手技のコツ / 岩本幸英 (編集)
- ・OS NOW Instrucion 整形外科手術の新標準10 脊椎の低侵襲手術 患者負担を軽減する手術のコツ / 馬場久敏 (編集)
- ・癌化学療法ハンドブック 第6版 / Roland T. Skeel (著)、古江 尚 (他訳)
- ・解明病理学 病気のメカニズムを解く / 青笹克之 (編集)
- 《寄贈本》
- ・エキスパートナース MOOK オールカラー看護学生版シリーズ⑥ 臨床実習で学ぶ看護技術 / 延近久子 (編集)
- ・看護診断をふまえた経過別看護1 急性期 / 山口瑞穂子 (他監修)
- ・新・ベッドサイドの看護過程1 疾患別看護過程の展開 成人編1 / 山口瑞穂子 (他監修)
- ・看護は観察ではじまる2 成人 (精神障害者を含む)・老人編 / 桒中征哉 (編集)
- ・日本内科学会雑誌 (雑誌) 96(1-9,11-12, 臨増),97(3-12)<2007-2008>
- ・透析フロンティア 増刊号 (雑誌) 30.34.42-49,55-56,58-59,64-65,67-68,78<1997-2007>
- 《別冊・増刊号》
- ・Emergency Care 2009年夏季増刊 救命救急スタッフにすぐに役立つ検査データの取り方・読み方・使い方 / 山本五十年 (編集)
- ・別冊 NHK きょうの健康 不整 突然死を防ぐために / 小川 聡 (総監修)
- ・別冊 医学のあゆみ ミオパチー 臨床と治療研究の最前線 / 桒中征哉 (編集)
- ・別冊 Medical Technology 別冊 新・カラーアトラス 微生物検査 / 山中喜代治 (編集)
- 《DVD・ビデオ》
- ・Audio Visual Journal of JUA Vol.15 No.3 / 日本泌尿器科学会 (監修)

編集室通信

▼7月に整形外科より広報に異動となりました公文幸子です。広報の先輩鍵本さんに色々教えていただき毎日です。今回お披露目を兼ねて担当二人でお互いの似顔絵を描きました。右が鍵本さんの公文、左が公文作の鍵本さんです。今後はこうしたイラストの出番が増えるかも知れませんか?!

ともあれ、早くお役に立てるように頑張ります。(公文)

